未来を託す若者たちの声

～若者アンケート調査より～

関東編集委員会

図１　年代別
合計１９７人

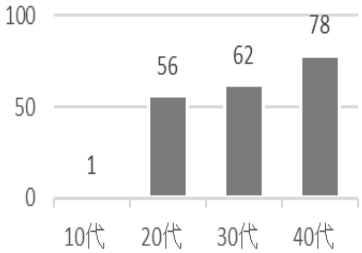
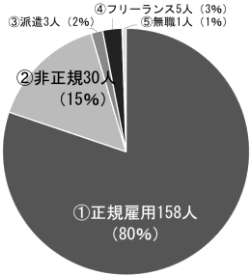


図２　雇用形態

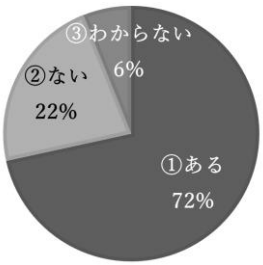


はじめに

『月刊まなぶ』では毎年２月号で、「春闘」特集を企画しています。労働組合の組織率は年々低下し、労働組合の数も活動も減っているなかで、今の若い労働者は「労働組合」「春闘」を知っているのか、この物価高を乗り切る為、どう賃金を上げようとしているのかなど、アンケートを実施する事にしました。私達の回りの若者を対象としたので、地域や職場的な偏りがあるかもしれませんが、現在の若者の意識を伺ってみました。

今回のアンケートに協力してもらったのは、図１にある年代の人たちで、20代、30代、40代がほぼ３分の１ずつです。図２：正規雇用で働いている人が、約80％と日本社会全体を見ると、正規雇用労働者が約60％ですので、今回は、正規雇用されている人が多く回答しています。

図３　労働組合はありますか



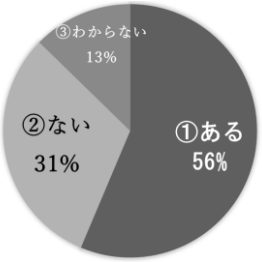
「労働組合」「春闘」はありますか

次は、「労働組合」「春闘」があるのか、集計から見てみましょう。

図３：労働組合はあります

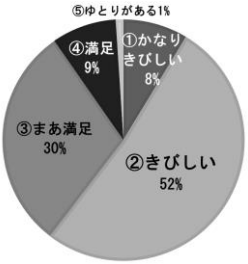
かという問いには、72％があるなので、結果的には、正規雇用と同じような数字になりました。ところが、図4：「職場に春闘がありますか」については、組合があっても下がります。56％の人しか春闘があると感じていないのです。組合の無い職場、非正規雇用の職場では、ほとんどの人が、「無い」「分からない」と回答しています。

図4　職場に春闘はありますか？



生活実態は満足ですか？

図5　あなたの生活実態は？



生活実態はどうでしょうか。図5：実に60％の人が「きびしい」「かなりきびしい」に回答されています。物価高、税金が高い。子どもの学費等で、生活苦、貯蓄の余裕なし（40代正規）。正規雇用で働きたい（30代）法律で最低賃金全国一律にする、一番高い東京と同じにする（40代）。賃上げを早くしてほしい。との声が寄せられました。

一方、40％の人が、「まあ満足」～「ゆとりがある」に回答しています。労働組合の無い職場で働く30代、40代が結構満足しているという回答には驚きました。

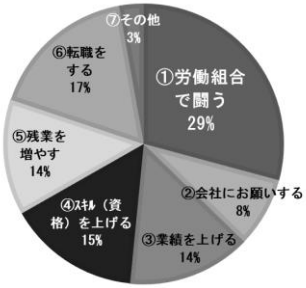
賃金を上げるにはどうしますか？

図6：では、賃金を上げる為には、どうしているのか？　どうしようと思っているのか？　見てみましょう。この問題のみ複数回答可としましたので、様々な意見が反映されていると思います。

表6　あなたの賃金を上げるにはどうしますか？

		①労働組合で闘う	②会社にお願いする	③業績を上げる	④ｽｷﾙ（資格）を上げる	⑤残業を増やす	⑥転職をする	⑦その他	合計
年代別合計	10代	1	0	0	0	1	1	0	3
	20代	37	6	12	9	11	17	1	93
	30代	26	7	17	20	20	23	2	116
	40代	30	13	17	20	11	14	6	111
合計		94	26	46	49	43	55	9	323

図6　あなたの賃金を上げるにはどうしますか？



この表から見られる事は、賃金を上げるためには、労働組合で闘う事よりも、自分で何とか解決したいと考えていること（スキル・残業・転職）があきらかになりました。成果主義が徹底され、個々で会社と対応しているのだと思います。

アンケートに寄せられた若者からのメッセージ

アンケートには多くのメッセージが寄せられましたが、ここにその一部を紹介します。

①年金に頼れない日本の未来を見据え、貯金をしつつ生活していくことのなんと大変なことか‼　子育てをしながらの共働きは、出来ないことはないが、まわり（両親や子どもたち）の負担も多く、夫妻どちらかが短時間労働にならざるを得ない状況も多々あります。

中小企業や業種によっては、労働組合の「ろ」の字もなく、その会社で経営側と争うより、「より良い条件の会社へ転職したほうが…」という考え方が浸透してきているようです。労働組合の弱体化というか、現状に合っていないといえばよいか…。社会的に年功序列という雇用形態が崩れ、会社は優秀な人材を求めつつ、人員整理の名目で賃金を多く受け取る世代には様々な試練を課し退職を促します。

労働組合といえば、労働者の権利を守り、経営側の理不尽な要求等に対して個人ではなく全員（全体）で立ち向かっていくというイメージですが、現状そこまで労働者側に寄り添い権利を守るために闘う労働組合がどれだけあるでしょうか。

②労働者が社会の主人公ということを日々実感。

③（40代）家族と自身の健康を優先した上で、スキルを上げる努力をする。

失われた30年を取り戻す

70年代の春闘は、日本全国に拡がりました。正に労資対立、総評を中心に労働者が団結しました。国鉄、私鉄、民間、公務員みな労働者として、お互い支援し、働く者が正当な要求をかかげて闘う事に国民も理解を示し、国民春闘となりました。大幅賃上げを全国的に勝ち取っていました。その後総評が解体され、横の繋がりを切られ、企業体毎の春闘となり、成果主義が導入されました。労働者はバラバラにされ、個人解決を迫られた結果、名ばかり春闘・失われた30年に至ったのですが、春闘を取り戻す運動を若者と一緒にたたかっていきましょう。